

第 36 回 ESVS Annual Meeting 参加レポート

旭川医科大学 外科学講座 血管外科学分野
高橋 一輝

この度、第 50 回日本血管外科学会 (JSVS) 学術総会にて最優秀賞を受賞した副賞として、第 36 回欧州血管外科学会 (ESVS) Annual Meeting に参加させていただきました。JSVS から演題の推薦と参加支援を頂き、このような貴重な経験をさせていただけたことにこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

第 36 回 ESVS Annual Meeting はイタリア、ローマの LaNuvoia Conference Centre にて開催されました。学会開催期間は 2022 年 9 月 20 日から 23 日で、現地では会場内や公共交通機関はマスクでの対応となっておりましたが、街の人々はほとんどマスクをしておらず、日本との違いも感じさせられました。Covid19 感染症だけでなく、ウクライナ危機による航空路の変更、インフレーション、原油高騰などの世界情勢も現地に行き肌で感じました。学会ではほとんどのセッションが対面形式で行われ、Web での参加は少数となっております。

今回私は ESVS の Best abstracts from national societies symposia で口頭発表をさせていただきました。セッション名の通り、様々な国の代表者と同じ壇上で発表させていただきました大変光栄に思いました。発表に際して座長である第 36 回 ESVS 会長の Mauro Gargiuro 先生よりご紹介を頂き、10 分間の発表をさせていただきました。Significance of predicting prognoses of chronic limb-threatening ischemia (CLTI) patients using a prognostic risk factor 「カリキュレーターによる CLTI 患者の予後予測の意義」の演題を発表し、座長の先生方よりご質問を頂きました。発表・質疑応答は自分の持てる限りの英語で臨みましたが、自分の英語力の未熟さを感じさせられました。しかし、演題内容に関しては賛辞の言葉もいただき、日本での取り組みを世界の血管外科の先生方に伝えられたことは大変うれしく思いました。

また、座長の先生方より「日本血管外科学会からの演題発表を心より歓迎します」と発表の前後で繰り返しお言葉を頂きました。全員の発表後に Mauro Gargiuro 先生と少しの時間ですがご挨拶させていただき、大変恐縮ではありましたが、今後の活躍を期待しているとお言葉を頂き、今後の学術活動に身が引き締まる思いで今回の発表を終えることができました。

初めての国際学会参加と様々な演題発表を拝聴する機会を頂き、各国の取り組みや日本との違いを肌で感じる事ができました。さらに、JAGUAR and ADVANCE, BEST CLI, ACTS-2, BASIL2/3, SUNDAY, PROMOTE ALI といった血管外科分野の最新の Study の現状や今後の展望についても対面でタイムリーに把握することができるとても貴重な経験をさせていただきました。このような貴重な機会を与えてくださいました JSVS 運営に携わる先生方および会員の皆様方、日々ご指導いただいている東教授、そして日々の診療を共にしている旭川医科大学血管外科スタッフの皆様がこの場をお借りして深く感謝申し上げます。ローマ、トレビの泉にコインをささげ、ESVS に戻ってくることを祈願し ESVS Annual Meeting の参加報告とさせていただきます。



現地会場風景



発表風景